

香川大学防犯パトロール隊（香川県）

江郷 皆様、こんにちは。香川大学防犯パトロール隊代表の江郷颯人と副代表の加藤雄大です。よろしくお願いします。

本日は、このようなすばらしい場にお招きいただきまして大変感謝しております。どうぞよろしくお願いします。

それでは、早速内容に入りたいと思います。



活動地域

加藤 まず、香川県の場所の説明をします。香川県、通称うどん県は、日本地図で見るとここ、四国の右上にございます。災害が少なく、非常に住みやすいところです。県外の方には、よく「香川県民はうどんを毎日食べるんでしょう」と冗談を言われます。実際のところ、江郷君、どうでしょう。

江郷 これは冷やかしで言われるのですが、本当に毎日食べています。

加藤 というほどでもなくて、実際は週に5日くらい。

江郷 週に5日は毎日でいいですね。

加藤 というくらいには食べています。

江郷 安いです。

加藤 そのうどん県の県庁所在地、高松市に香川大学があり、経済学部、法学部、教育学部、医学部、工学部、農学部、最近できた創造工学部の合計7学部があります。



団体概要

次に、サークルの発足から現在の活動にいたる経緯について御紹介いたします。

江郷 このサークルができた最初のきっかけは、昨年の1月に私自身が自らの正義感と行動力をもとにして、大学生の若さ、機動性を生かした防犯ができないかという考えに至ったことです。私は今まで普段の生活をする中で、何か目の前で悪さをする人間がいても、自分には何もできないという無力感がもどかしく、何か社会の安全

に貢献できないものかと、ずっと考え続けてきました。そして大学生になって、自分と同じような考えを持つ人がほかにもいることに気づき、そのような同士を募って、2018年1月に活動を開始しました。

活動を始めた年の夏に、大学の近くで大きな火災に遭遇しました。このとき現場は非常に混乱しており、警察、消防ともにまだ到着しておらず、私たちで避難誘導を行いました。これがきっかけで香川県警察に認知され、協力していくようになりました。今スライドに映っている写真が実際の現場の写真です。

加藤 サークルの発足から1年間は、あえて人数を増やすらず、活動目的、活動意識を全員で統一すること、そして防犯の知識を習得することに徹しました。この際、警察の防犯パトロールマニュアルを参考にしたり、大学の教授に御協力を頂いたりしました。このようにして、まずは団体の基盤を形成し、今後の運営や新メンバーの教育に対応できるようにしました。そして、その努力が実ってか、多くの新メンバーが加わり、現在、総勢34名となっています。発足時に比べて約4倍のメンバー数になっていまして、その内訳としては法学部の学生がほとんどを占めておりますが、他学部生も加わり、1年生も2年生も加入してくれています。

江郷 また、女子の隊員も加入してくれています。そして、この活動の実績が大学に認められ、今年の8月から香川大学公認のサークルとして活動をしています。

発足から1年

- ・活動目的・活動意識の統一
- ・防犯に関する知識の習得

に徹した。

発足の経緯

2018年1月

「大学生という若さ・機動性を生かした防犯活動ができないか」と考え、同志を募る。



火災現場



メンバーの構成

メンバー数…34名

(2019年9月時点)

学部内訳	
法学部	28名
経済学部	3名
創造工学部	2名
教育学部	1名

学年内訳	
1年生	20名
2年生	4名
3年生	10名



今年8月から

香川大学公認サークルに！

続いて、私たちの団体運営の根底にあるモットーは何か。それは、持続可能であることです。御存じのとおり、今、防犯ボランティアの世界は高齢化と後継者不足による問題が発生しています。そこで、大学生である私たちが、この先何十年も活動を絶やさないようにすることが一番の使命ではないかと思っております。そして、将来性

を持った若い世代のお手本となる団体になることで、高齢化、後継者不足問題の根本からの解決へつなげていきたいと考えています。

 **団体のモットー**

持続可能

この先、何十年も活動の絶えない団体に
将来性を持ち、若い世代のお手本となる団体に

→高齢化・後継者不足問題の解消へ

活動内容

加藤 続いて、活動頻度について御紹介します。毎月5回から6回を目安にパトロールとミーティングを行っています。こちらは全員参加の活動です。一方で、そのほかのイベントや外部のボランティア活動は任意参加としています。また、試験期間中や長期休暇中は活動自体をお休みにしています。これは、活動が負担とならないようにするためで、モットーである持続可能を意識しています。

次に、活動地域の説明をします。私たちは基本的に香川大学の周辺で活動しています。近くには主要な駅があり、商店街が連なり、繁華街となっています。

 **活動頻度**

- 月に5～6回、パトロールとミーティング
- そのほかのイベント等は不定期・任意参加

**→活動日・活動頻度を柔軟に調整
活動が負担とならないように**

 **活動地域**

←高松駅



商店街→



江郷 続いて、活動時の装備品について御説明します。まずこのように、全員統一のベストと腕章を装備してパトロールを行っています。また、夜に活動する際は、このようなライト、合図灯なども装備して行っています。合図灯は青色の長い合図灯だったり、今、副会長の加藤がついている赤色の短い合図灯などを使用しています。これらは隊員から徴収した部費であったり、警察のボランティア支援物品、また香川県からの補助金などを活用してやりくりしております。

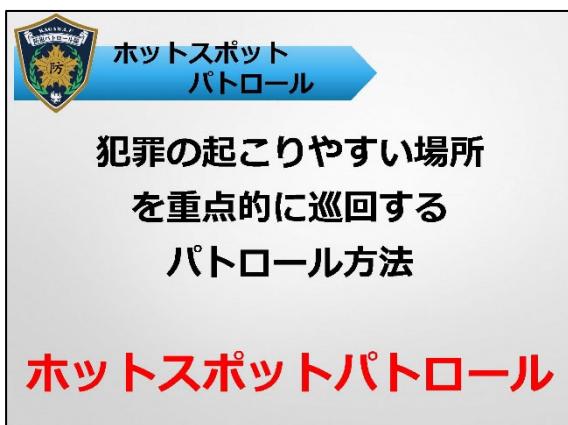


装備品



それでは、私たちの活動について詳しく御紹介いたします。まず一つ目は、ホットスポットパトロールです。これは私たちの原点でもある活動です。このホットスポットパトロールとは、犯罪が発生しやすい場所であるホットスポットを重点的に巡回するもので、犯罪抑止効果が非常に高いとされています。私たちはほかのボランティア団体があまり活動をしていない夜に目をつけて活動を始めました。パトロール時は班分けを行い、一班5人ほどで活動をしています。

加藤 これはごみが散乱しており、管理が行き届いていないため、ホットスポットとされている場所の様子です。



これは車上荒らしが多い駐車場を見て回っている様子の写真です。

これは夜の商店街をパトロールしているときの写真です。



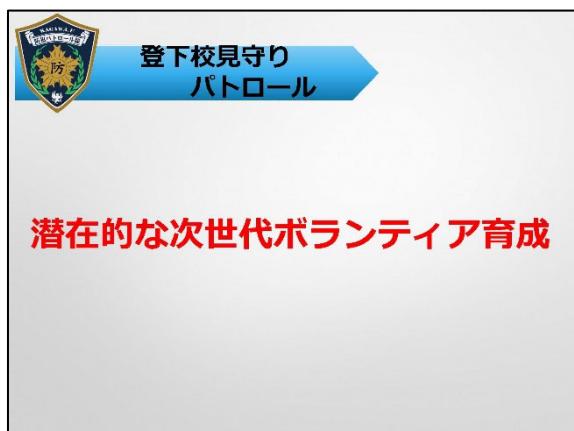
パトロール中にあったエピソードとして、突然逃げ出した自転車の2人組を追いかけたところ、その自転車が盗難品だったことや、不審車両を見付け、通報したことなどが挙げられます。

このようなこともあるので、パトロール時には班ごとに班長、通報員、証拠記録員の役割を分担し、有事の際に対応できるようにしています。また、このようなエピソードや自転車盗難が多いことを踏まえて、不審な自転車のチェックも行うようにしています。



江郷 続いて登下校の見守りパトロールです。最近、幼い子供を狙った凶悪事件が後を絶ちません。そこで、私たちも幼い子供たちを守る活動をしようと決めました。

加藤 香川大学の近くには三つの小学校と一つの中学校があり、生徒の登下校の時間に合わせて周辺をパトロールし始めました。児童の登下校の安全を目指せるだけでなく、年齢が近いということで子供たちに親しんでもらいやすく、若い防犯ボランティア自体を PR することができます。これは潜在的な次世代のボランティア育成につながっていると考えることもできます。



江郷 続いて勉強会とミーティングです。



加藤 私たちはパトロールなどをただ行うだけでなく、大学という環境を利用し、犯罪心理学を研究する教授に協力をお願いし、理論面からも防犯を学んでいます。更に PR 活動もしています。私たちのことや、このような活動のことをより多くの人に知ってもらうために、また、新入隊員を募集するために、ビラを配ったり説明会を実施したりしています。



また、Twitter を活用して、同世代の学生をはじめ、Twitter を利用している地域の方々に情報発信を行っています。Twitter では自分の活動の報告や新たな取組の報告などを行っております。実際に Twitter を通じてマスコミから取材の依頼を受けたりもしました。



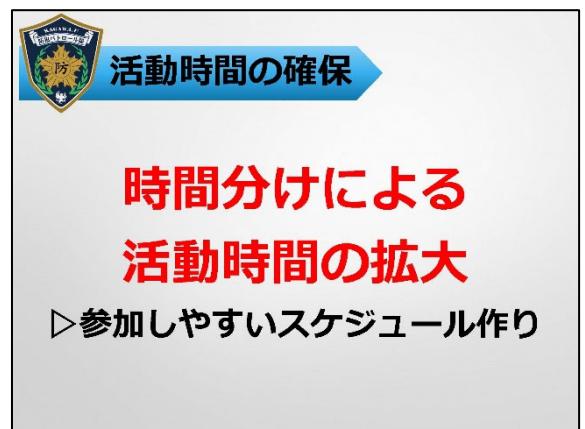
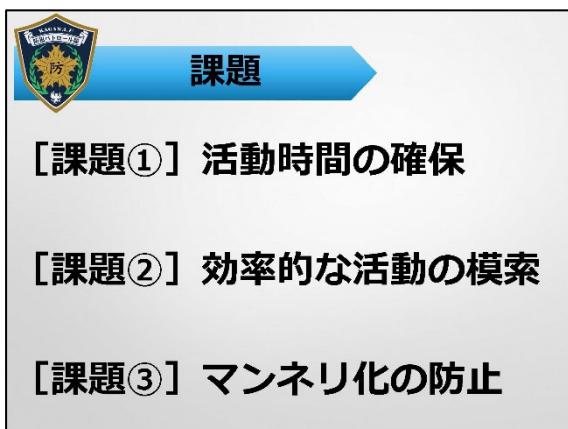
江郷 この写真は、実際に取材を受けて、特集で放映された様子です。このようにメディアの力もお借りして、ボランティア活動をPRし、隊員募集にもつなげているところです。

そしてそのほかの活動として、香川県警主催のイベントやボランティア活動にも積極的に参加させていただいている。こちらは警察と合同で行った、大学内の自転車の施錠率調査の様子です。そしてその調査の結果を受けて、学生に鍵かけ、自転車の施錠の啓発を行っている様子です。



課題／課題の解決に向けた取組

続いて、私たちの課題と、その解決に向けた取組について御紹介いたします。課題は大きく三つあります。活動時間の確保、効率的な活動の模索、マンネリ化の防止です。



加藤 一つ目の活動時間の確保に関してお話しします。私たちは急激に隊員が増加したため、活動日を固定することが困難になりました。そこで毎月ミーティングを開催して、翌月の活動日を決めるようにし、全員が月に1回以上は活動できるように調整しています。

二つ目の課題は、効率的な活動の模索が必要だということです。活動に際して、どうしても活動時間が限られているという制約がありました。大学生は授業のほかにも、サークル活動やアルバイトなどで忙しく、また、人によって空いている時間がまったく異なっているため、全員が同時に活動できる時間がほとんどありません。

そこで、それぞれの趣味などの時間を活用する、効率的な活動を始めることにしました。いわゆる「ながら活動」

です。代表的なものとして「パトツー」というものを実施しています。「パトツー」とはパトロールツーリングのことです。バイクを所持しているメンバーが防犯ベストを着て、見守り活動をしながらツーリングを行うことです。このような趣味と重ね合わせた活動も、これから更に行っていこうと考えております。

 **活動の模索**

効率的な活動

▷ 「ながら」活動

 **ながら活動** → **パトツー**



三つ目の課題はマンネリ化の防止です。マンネリ化を防ぐため、新鮮さと楽しみづくりを心がけています。具体的に紹介します。一つはデジタル簡易無線の導入です。私たちは現在7台導入しており、パトロール時、1班につき1台を使用しています。これによって、パトロールに少し楽しみが加わるとともに、各班の連携性が格段に向上しました。また、使用する無線機は総務省に登録、届出を出しています。

 **マンネリ化防止**

「新鮮さ」

「楽しみ」

 **デジタル簡易無線**



また、警察官との合同パトロールも実施しています。警察との連携をアピールできる上、いつもと違った感覚でパトロールができますし、また警察官からためになる知識を教えていただき、私たちのパトロールに生かせています。これまでに6回ほど実施しており、これからも是非続けていきたいと考えております。

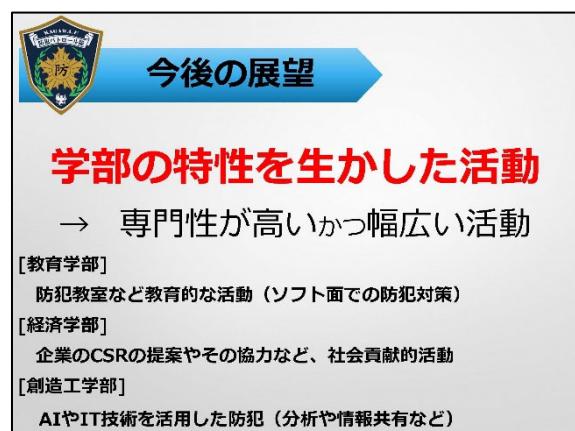
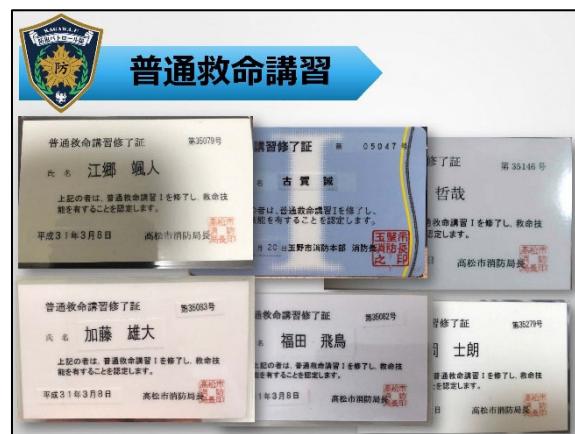


江郷 ほかには、隊員に普通救命講習の受講などを推奨しています。自らのスキルアップになるだけでなく、それが活動へのモチベーションアップにもつながると考えており、隊員は積極的に受講してくれています。また、婦人会の組織である香川県ぐらしの安全見守り隊など、他団体との合同の研修会なども行っています。

加藤 続いて、今後の展望について御紹介します。現在、メンバーの大半が法学部の学生です。そこで今後は他学部生にも焦点を当てて活動、メンバー募集をしたいと考えています。そうすることで学部の特性を生かした活動ができ、ボランティア団体としてより幅広い活動ができます。

江郷 今、一番に考えているのは、教育学部に焦点を当てた活動です。私たちは今後、小学校で児童と一緒に地域安全マップづくりを行う防犯教室を開く計画をしています。これから社会を担う児童に、防犯の意識を持つてもらうことができます。そして、既に市内の小学校からこの防犯教室のオファーが来ており、実施することが決定しています。

加藤 また、経済学部では、香川大学の卒業生とのつながりを利用して、地域の防犯という形で CSR に関わるのではないかと考えています。更に創造工学部では、例えば AI や IT 技術などを防犯に活用する研究などが可能ではないかと考えています。このような、大学生だからできる柔軟な活動、専門性、特色を生かした取組を、これから目指していくと考えています。



江郷 最後に、皆様にお伝えしたいことがあります。昨今、防犯ボランティア活動をする若い世代が少ないと言われておりますが、決して若者が防犯ボランティア活動に興味がないわけではありません。防犯ボランティア活動に触れる機会が少ないからだと思っています。是非皆様、私たちのような若い大学生を活動に誘ってみてください。私たちも同じ世代の防犯ボランティアが増えるように、これからも一生懸命頑張ってまいります。

以上で発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

